

ほうじん しょうがいしゃ しょうほさんか かい だいひょうり じ すずきみさお
NPO法人 障害者の職場参加をすすめる会(代表理事 鈴木操)
さいたまけんこしがやしひがしこしがや すがびる しょうほさんか よいしよ ない
埼玉県越谷市東越谷1-1-7須賀ビル101 Tel・Fax 048-964-1819 職場参加ビューロー世一緒内
E-mail shokuba@deluxe.ocn.ne.jp HP <http://www.5b.biglobe.ne.jp/~yellow/>

2013 年度定期総会・記念シンポジウム開催しました



当会の大きな集会は、越谷市中央市民会館が県立大学に会場がきまっています。今回は初めて「越谷市障害者就労訓練施設しらこぼと」を会場にして、総会と記念シンポジウムを開催しました。雨模様にもかかわらず、会員35名、非会員42名、計77名が参加しました。
写真は定期総会の様子です。昨年度事業報告については読み上げでなく、世一緒関係者や就労支援センター職員からのスライド説明という形で行い、好評でした。

定期総会—コンパクトに、わかりやすく

当会も、2004年に発足し、やがて10年を迎えます。

会員の方々の多くは、会発足後にできた世一緒や市就労支援センターの日常に接したことがあまりないのが実情です。

そこで、今年の総会では、各事業ごとにスライドを映写し、世一緒スタッフやファシリテーター、就労支援センター職員等から説明をしてもらいました。

「ピアサポート」とか「ガイドランス」という文字だけでなく、顔が見え、肉声で伝え合えたことがよかったです。



就労支援センターが調整を行っている地域適応支援事業のところでは、当会運営委員でもある自治労越谷市職員組合の森田委員長が、補足で説明しました。実習期間だけでなく、年間を通して小さな仕事をシェアできないか、またささやかでも有給にできればという視点で、組合の足元から仕事をみつけているとの頼もしい報告でした。



今年度の事業計画案は、当会運営委員で三郷市の就労支援センター職員・大野さんが読み上げ可決されました。申請した大口助成金が通らず厳しい運営となりますが、地域団体との連携を強め、自治体との意見・情報交換も進めます。



共に働く街-市民・自治体の協働は

総会に引き続いて行われた記念シンポジウムでは、第1部でこれまでの会の活動をふりかえりました。これまでの福祉や就労の常識をこえた「職場参加」の取組みの中で、自分たち自身発想の転換を迫られてきたことについて、山下事務局長と沖山就労支援センター所長が語りました。

こんなはずでは… : 山下

昔家の奥にとじこもらざるをえなかった重度障害者も共に働けるスウェーデン並みの制度を求めた。が制度が充実してゆくに応じて、人が制度に困り込まれ自分を分け隔てている。かってスウェーデンで、大規模施設の職員が入所者と小さなユニットに分かれ街の中の共同住宅に移って行ったように、施設が施設内で完結せず、職場・地域と一緒に出て行く支援が変わってゆけるよう、地域・自治体ぐるみで試みを重ねよう。雇用だ福祉だと枠をはめなければ足元の地域・職場には沢山の可能性がある。



就労支援の草分けもびっくり : 沖山

以前の職場では、意欲、社会性、自力通勤、体力等を前提とした上で障害等は不問にして、就労支援してきた。ここでは就労意欲があるのかわからない人が多いのに、職員が親身に話に応じている。違和感あるが、家庭内が落ち着き、それが働く意欲につながればと思う。心がけているのは「何事もゼロよりまし」。外へ出て行く条件が整っているか・いないかと考えるより、どんな仕事でもいいから働いてみて考えること。お金をもらって生活リズムもできる、一番のデイケアではないか。



シンポジウム第2部では、「職場参加」の取組みから周りの地域にズームアウトしてゆきました。長期不況、リストラ、過労死、そして3.11を経て、これまでの社会のありかたが問われている時代に、あちこちの現場で始まりつつある「新たな働き方の模索」について、多彩なパネリストから語っていただきました。コメンテーターの市担当者は一緒に働き・語ることが気付きにつながると述べ、就労支援センター元所長でもあるコーディネーターは、このつながりの中から共に働く街づくりをとまとめました。ここでは、パネリスト等のお話を簡単にまとめて報告に代えます。

グループワーク 継承の道ひらこう : 日吉孝子 (世一緒ファシリテーター)



施設に行きたくない一心で一般就労してきた私にとって、職がなくて施設にも行ってない障害者の存在は衝撃だった。今世一緒で彼らと活動している。世一緒には職員はいず、障害者がスタッフ。ここから就労して行く先も、フルタイムではない所が多い。世一緒ではグループワークと称し、公園の花壇整備作業の委託を受け、世一緒のスタッフといろいろな施設でシェアして働く。外へ出ることで、障害者も地域・職場も変わる。共同受注の構想が語られるが、こうした経験を継承してほしい。

24時間のケアと協同労働の夢と現状 : 高瀬 勇 (てとてとの会・南埼玉病院看護師)



一昨年9月、イタリア映画「人生ここにあり」を勤務先の精神科病院デイケアで観に行き感動した。地域で患者が生きるには24時間ケアと働く場を支える協同組合が必要と考え、集まっている。仙台のピアサポートセンターそらにみんなで見学に行くつもり。セルフヘルプグループは当事者だけが、ピアサポートセンターは当事者以外の人も働く。中心で動いている人が就職してしまうので複雑な思い。事業をおこすのはたいへんだ。アイディアがあればぜひ提供してほしい。

協同労働で自給・共生の街づくり： 石田裕人（ワーカーズコープ北関東事業本部）



協同労働の協同組合の仕組は、雇う・雇われるという関係ではなく、ボランティアや自営業とも異なる。働く者が金を出し合って、組合として仕事をして生活してゆく。東北大震災を機に、自給できる地域づくりが求められている。私の関わる放課後児童デイサービス事業も、さらに親御さんたちの地域での仕事おこしとつながることが課題だ。障害者自身の働き方としては、前に群馬県に知的障害者の2級ヘルパー研修を提案し、受託して実施した。特別支援学校や就業・生活支援センターで喜ばれた。ヘルパーになった障害者が認知症の高齢者とにこやかにコミュニケーションをとる。職員も彼らから接し方を学んでいるとのことだった。

主婦がきり拓く高齢化社会の居場所： 佐藤春江（埼玉葬送サポートセンター代表）



ワーカーズコレクティブは、主におばさんたちが出資して身近な地域で仕事をつくって働いている。新聞に主婦たちの弁当屋さんが紹介されていてアポなしで訪ね、おばさんはすごいなと思ったのがきっかけ。リフォームの事業を12年やった後、葬儀の仕事のワーカーズコレクティブを立ち上げ、現在に至る。昨年協同まつり in こしがやで皆さんと知り合った。いまは残ったお金をみんなで分けているので、最低賃金どころの状況ではないが、アピールし地で委託をもらえれば、安定につながってゆくと思う。これからの高齢化社会の中で、居場所づくりになっていければと思う。若い人たちにぜひバトンタッチしていきたい。

障害者の部分就労 市役所の職場から： 永野 勝（自治労埼玉県本部書記長）

昨日まで自治労越谷市職員組合の委員長。



地域適応支援事業のきっかけをつくった組合として、この事業のつぎのステージとして、お金になる仕事のきっかけになるなら一肌脱ごうと考えた。組合事務所に恒常的にある仕事を切り分けした。たとえば東武動物公園の組合員向けチケットにスタンプを押す仕事。普通に職員がやったら1時間の仕事を、市役所の理事職員の時給920円の仕事と決め、それにもっと時間をかけるのは自由だということにした。

市役所で障害者に仕事をというと、法定雇用率達成とか、人事課サイドの四角い仕事を考えてしまうが、いろいろな働き方をつくろう。一見ちゃんと働いているように見える人の中にも限界の人もおり、壊れてしまう人もいる。その部分をみんなで分けていかないといけない。仕事する側から、こういうやりかたならできるといふことを、売り込む必要もある。

コミュニケーションの壁と働き方： 宮下昭宣（越谷市聴覚障害者協会代表）



当会の会員は賛助会員を含めて70名で、年1回市と懇談会を持っている。上部団体は厚労省、文科省と交渉している。

私自身は25年間勤めた会社を早期退職し、再就職した。障害者求人は多いが、中途採用は少ない。職場には手話通訳がないこと、文章力を見たいということから、面接は筆談で受けた。私たちの仲間は文章が苦手な人もいるので大変だ。

前の会社はグローバルな会社。設計の仕事をしていて、仕事関係の講習を受ける際に手話通訳を希望したら、外国人の上司は理解があつたが、その上司がだめだった。講師がインド人で筆談で援助を受けたが、大変だった。

今は事務系の仕事でマニュアル通りにやればできるが、早く終わって時間が空くのが辛い。隣の人が辞めてしまったので徐々に仕事は増えてきた。これから仕事の幅を拡げて行きたい。

ゼロから始まった地域での就労支援

：松田和子（NPO法人ひかりの森理事長）



視覚障害者という全盲で非常に危なくて何もできないという間違った認識があり、なかなか就職できない。が、最近、地域適応支援事業で2人が職場体験をして、こんな仕事もできるということで、就職に向け動いた。正規のルートは厳しく、協同まつり in こしがやで縁ができた主婦たちの弁当屋さんに頼み込んだ。なんでもいいから経験させてほしいと。

ゼロから始まるということ。会話が好きな女性の方は弁当注文の電話を受ける体験を半年やり、こういうところで仕事がしたかったと。そして半年経ち、就労支援の職員が入って話し合いを持ち、覚書を交わすまでになり、交通費とお弁当が出ることになった。男性の方は、パソコンでメニューを作らせてもらい、代金の中から本人へもお金が出せた。

コメント

一緒に働き・語ることから気づきが

：藤城浩幸（越谷市障害福祉課副主幹）



市役所の職員はいろんな職場を転々とする。別の課の仕事は知らないし、障害福祉課内でも係がちがうとわからない。地域適応支援事業の実習を受け入れた時、おしゃべりタイムを

設けたことで、ふだん障害者と接していない職員も一緒に仕事を進めて行く上でプラスになった。



今回部長から地域適応支援事業を市の障害者就労の中で今後どう位置付けて行くかも一度考えるよう言われた。日吉さんからグループワークの継続の場をという話があったが、優先調達法の施行に伴い市としても共同受注の構築が課題になっている。近隣他市から問合せが入ってくるが、どこも似たり寄ったりの状況のよう

だ。100点とはいかなくとも、皆さんと歩調を合わせてやっていきたい。

コーディネーターまとめ

問われる 共に働く街づくりの意思

：吉田弘一（NPO法人かがし座事務局長）

優先調達法の話、ありがとうございます。パネリストの皆さんも長時間にわたり、ありがとうございました。

第1部の沖山さんの話の中に「就労意欲があるかないか」という言葉があった。

障害者の問題とほかの社会的な困難を抱える人々の問題が重なってきつつある中で、私たちも本当の意味で、「共に働く街づくりの意思はあるのか」ということを問いかけられているんだと思う。

ここで終わりではない。ここからどうつくって行くかだと思う。お疲れさまでした。



働いて 病んで 居場所発見

世一緒スタッフ 青木 繁明

私は昭和22年7月5日生まれです。学歴は中卒です。職歴は最初はプレス工として入社しましたが、一か月と十日間位で右手の指を欠損してしまい、医者への六カ月位通院しているうち会社をやめてしまいました。それ以降は、アルバイトとしていました。東京都飯田橋駅の近くの大坂出版社を六カ月位、三井住友生命会社の清掃を四カ月位、凸版製本夜勤を三年位、自衛隊は、一年二カ月で依願退職しました。

それから建築工として三〇歳頃から始めました。簡単な片付け、だけですが三八歳頃まで高田の馬場、それから山谷南千住にも行きました。上野の駅からや渋谷の駅からも手配師の声かけてくれたので仕事として働きました。幻聴、いろいろな人の声が聞こえてきたので、みどり病院（昔は保養院）に入院し十一カ月で退院しましたが、一年間働いていましたが、又三九歳で再入院してしまいました。十九年間五九歳まで退院するまで、いろいろ手伝いながら暮らしていました。

最後の一年間は、やどかりの里へ見学に、健康福祉士とふたりでいき、部屋や面接したり食事をとって帰るといいう日が、一週間に一度ありました。一年ぐらい続き、ふとしたことで、春日部市のテレサに行ってみないかといわれ、見学がてらいつたのがきっかけとなり、試験外泊を続けるうち、山下さんや内田さんと話をしました。花見の会の時ですが、雰囲気がとてもよかったです。グループホームテレサにお世話になりたいという思いが強くなり、退院（1999年5月19日）しました。

余りしらない土地柄なので、交通や団地にも似たような感じで、なかなか馴染みませんでした。店にもドキドキしておちつかなくなかったとおもいます。山下さんが事務局長の世一緒へ西屋さんに連れて行ってもらい、約三〇分いたと思います。若い人達が多いのにおどろきました。でも、アミの松澤さんや辻さん夫婦や金子さんや吉田所長などと挨拶が出来るようになったのがうれしかったです。

今は、世一緒で内野さんや直井さん、日吉さん、門間さん達とお知り合いになれたのが、私のいばしよが出来たようになった事が自分の励みになります。世一緒、テレサでいろいろの人と会えるのが楽しみです。今は仕事（水上公園）の出でくる日をまちどおしいです。

会社をやめた後のくらし

世一緒スタッフ 上梨子 三恵

私は44年にうまれました。生まれる時にお母さんが、つらいおもいをしたそうです。ちゃんと、はなしができるようになったのは、二才か三才ごろはなしができるようになった。三才のときに保育園に、そのご小学校に行くようになって、友達ができなかった。それでもがんばってやすまないでいきました。中央中にいってからは、友達も出来て、中学校卒業したら、しゅうしよく出来ました。あとから女の子がいじめられて、会社を休むようになりました。ビニールの加工品会社でした。会社をやめて、家にいました。しばらく家にいました。

23年、秋ごろに、支援センターの方たちに就職しました。私の努力がたりなくてやめることになりました。

ヨイショにきてから、うれしかったのは、みんな、仲よく友達が、できるようになったので、県庁にハッてもらったり、しらこぼと水上公園で、花の

うえかえをしたり、南桜井のあいさつで、ちらしをくばったりしておもしろかったです。

家にいると私が一人ですばんをしたり、お母さんにおこられたりすることが多いです。家にいるとカラオケばかりいたりしてるとおこられます。ヨイショにくるといろんな友達ができたのではなしやすいです。ときどきほっさがでるので病院にいたりしています。

お父さんが病気でなくなった時は、びつくりして、お母さんと泣きつきりでした。私はお父さんが四十九日がおわったら、何日かしたら、きゆうきゆうしやで夜中、十二時前にお母さんと市立病院にいつて、私は、てんてきをやってもらったら、ストレスから来てると先生に言われました。

お母さんもびつくりしました。

まだチャレンジしたい

世一緒スタッフ 新地 勝志

平成6年に会社を辞めました。会社は運送業で大型車ドライバーをしていました。会社を辞めてから毎日散歩をしていて、世一緒の前を通っていました。外に提げている黒板をみてどのようなことをしているのか知りたくなって訪問しました。世一緒の皆さんにはまったく申し訳ありませんが、興味本位だけで、何かヒマつぶしでもできるかなという感覚で飛び込んだわけです。今は月曜日と水曜日の週二回、世一緒に顔をだしています。皆さん親切で、仕事発見ミッションなどにも参加させていただき、思い切った飛び込んでみてよかったです。妻と2人で暮らしていますが、妻は話し相手になつてくれる人がたくさんいてよかったです。現在69才という年齢ですが、まだまだいろいろチャレンジしたいという意欲は衰えていません。

世界は悪でできている

世一緒短期訓練者 大久保 陽介

時に「正義」と「悪」は関係が逆転する事がある。みんなが当たり前だと思込んでいる事が実は「悪」であるという場合もあれば、その逆もまた然り。

誰しもが同じように行動しなければならぬ世界が「正義」であるならば、それは自分にとっては紛れもない「悪」だ。一般常識にあてはめるのであれば、所詮、悪なんてものは淘汰されるべき存在ではない。

自分は越谷市障害就労支援センターと世一緒に関わってまだ日が浅い。きっかけは母がここを訪れて相談してきたからである。他人に共感できず、特定の事にはしか興味を持たないような人間にとって、「働く」もしくは「人と関わる」という行為は非常にハードルが高い。過去を思い返してみても、その方程式にあてはまることばかりだ。友達が欲しい感情と他者との距離のとりかたがわからない二人の自分が共存している。だんだん自分にとってどうでもよい人間ばかりが増えていくなかで、素晴らしい「自分だけの世界」が確立されていく。それに伴う二次障害には今でも悩まされて続けている。センターのスタッフに協力してもらい、一度だけ社会に飛び出してみたのだが、全くうまくいかず、この世一緒を紹介され5日間の実習をするに到った。

障害のある人は、程度の差はあれどそれぞれで「特別な世界」を生きぬいている。

目が見えない人は「光のない世界」、耳が不自由な人は「音のない世界」。その中で、どうすれば「普通の世界」に溶け込めるのだろうか、日々考え、現場へ飛び込んでいく姿はたくましく、自分には新鮮に映った。また少数であるが、良き理解者にも恵まれ、イキイキしているようにも見えた。そして、どうか彼らを社会へリンクさせようと尽力するセンターや世一緒のスタッフは「障害者」にとつての「正義の味方」なのだろう。

「健常者」を正義とした場合、「障害者」は悪になつてしまう。そこにはどうしても避けようのない差別が生まれる。

ただ「差別」に関して言えば特になんとも思わない。なぜなら、それは世界中で起こっている事象である上に、自分もどこかで「健常者」をある種、差別しているように感じているからである。

つまり、世界とは実は「悪」でできているのではないか。というのが自分の持論である。

そんな世界で生きていかなきゃならない以上、「自分の居場所作り」が何よりも重要になるのだと今回の実習を通して持った感想である。働く場所、友達、恋人、家族……途方もない労力を要するのだが、同じように何かの障害で悩んでいる方々には、その居場所作りにまず励んでほしい。同じ志を持った正義の味方はきっとたくさんいるのだ。

自分も殻に閉じこもってないで、その仲間仲間を探す時期がきたのかもしれない。

病院にかよっていること

世一緒スタッフ 新井 里佳

私は平成18年4月6日からかよっています。最初はドキドキしました。病院では障害手帳をとりました。私はそれから三年、一カ月に一回、精神科にかよっています。薬、エビリファイ1錠もらっています。平成22年7月15日統合失調症と診断されました。脳がいしゆくしてるといわれました。病院ではふだんどこにかよっているとかのことをよく聞かれます。先生は女の先生、男の先生とときによつてかわります。やっぱり精神的つらい面もあらわれています。今は病気のことでいろいろと悩んでました。でも自分でがんばろうと思うようになってきました。私は今でも病院に通い続けて、いつか元気になるかと思っています。これからのことでは病院には薬のことで聞きたいことがあります。母にはよく消化不良とかいわれます。どうしようか悩んでいます。薬はやくもらいたいです。また、先生にいつかみまそうことです。



花火大会の夜店 今年もやります



7月27日(土)越谷花火大会：世一緒の前は歩行者天国になります。
夜店のお手伝いは17:00集合 300円会費で食べたり飲んだりできます。



2013年度の事業計画が決まりました！



(1) 職場参加の基盤形成のための支援事業

本部事業では、就労支援ピアサポート施設である世一緒の運営管理、障害当事者のグループ活動、地域行事参加および世一緒の施設整備を行う。世一緒で蓄積されたピアサポートのノウハウを整理し、自治体・地域社会に情報提供してゆく。社会的排除・困難を負う人々の関係団体と協力し、地域の職場での就労体験を推進するネットワークを構築してゆく。



委託事業では、越谷市障害者就労支援センターにおける就労に関する相談、継続した就労支援、就労継続のための生活支援、離職時・離職後の支援、世一緒と連携してピアサポートによる就労支援を促進する。特に、就労継続のための生活支援において要めとなる家族のつどいを開催し、家族のエンパワメントを支援してゆく。



(2) 福祉施設等の職場参加に関する協力関係の促進を図る事業

本部事業では、福祉施設等との連携による地域・職場の開拓を行う。特に事業所の協力を得て、福祉施設等の施設外支援と就労・職場参加をめざす障害者の職業体験を組み合わせたグループワークに取り組む。また、障害者だけでなく就労困難者及び支援者の団体との協力関係を促進する。グループワークで蓄積された多様な働き方のノウハウを整理し、自治体・地域社会に提供してゆく。

委託事業では、越谷市障害者就労支援センターにおいて地域適応支援、地域の就労支援関係機関との連携を行うとともに、グループワークの情報提供やグループワークを就労支援利用者のアセスメントの場として活用する。本部事業、委託事業を通して、福祉施設等が利用者の地域の職場への多様な就労の支援を担えるよう支援と協力を行う。



(3) 障害者の就労・生活支援のための資料収集と情報提供に関する事業

本部事業では、就労・生活支援のための社会資源の調査・資料収集（仕事発見ミッション・他団体との連携）と会報発行（職場参加ニュース）、ホームページの更新を行う。

委託事業では、越谷市障害者就労支援センターにおいてニーズ調査と実態把握、就労支援センター通信の発行を行う。

(4) 啓蒙と地域の輪を広げるための勉強会等を開催する事業

本部事業では、講師を招き大規模に行う講演会（総会記念シンポジウム、共に働く街を創るつどい）、小規模の勉強会（共に働く街を拓くべんきょう会）を行う。このほか、国、自治体に対する提言を検討するための情報・意見交換のために、関係機関担当者等との研究会を随時行う。

委託事業では、越谷市障害者就労支援センターにおいて地域適応支援事業の今後を考える講座等を行う。

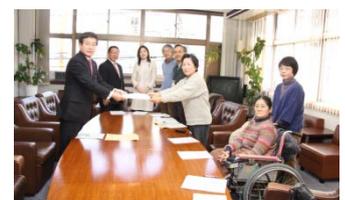


(5) 国、自治体に対して施策を提言する事業

本部事業において、共に働く街づくりに向けた自治体提言、国への提言を行う。

(6) 協力事業所の開拓に関する事業

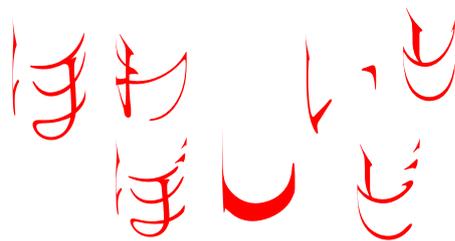
本部事業では、仕事発見ミッション、こしがや産業フェスタへの出店を行う。



委託事業では、越谷市障害者就労支援センターにおいてハローワーク、学校、施設等、関係機関、事業所の協力を得て職場開拓を行うとともに事業主ピアサポートを行う。

この他、各種事業主団体に参加し、情報交換や連携をめざす。

★ (1) ~ (6) は定款上の事業名です。各事業を本部とセンター（委託）で実施します。



事業インフォメーションあれこれページ。(左の絵は越谷市のU I さん作。前に世一緒に立ち寄られた時描いていただきました。)

▷本部事業

一緒に未就労の障害者が電話番をしています

本部事業の拠点である「職場参加ビューロー・世一緒」は、専従職員がいません。月～金の10:00～16:00は、就労支援センターの利用者等の中から希望者を募り、職業体験の一環として、日替わりで電話番や掃除、来所者への説明、印刷・製本などの日常業務を担ってもらい、若干の謝金または実習手当を支給しています。

このほかにボランティアやアルバイトのサポーター、当事者ファシリテーターがいますが、いない時間もあります。世一緒に来所や電話をされる時は、お手数ですが、できるだけわかりやすい言葉で、短く、ゆっくりお話しいただければ幸いです。

ここは公的機関ではなく当会のインフォメーションセンターです。ご予約なしで通りがかりにお立ち寄りいただいてもかまいません。要領を得ない説明をするかもしれませんが、お時間があればその都度ご質問いただきながら説明させていただければと思います。さまざまな人々が出会うための社会実験の場として開設しています。

●世一緒の活動にお試しで参加してみませんか

世一緒は、誰もが役割を分かち合ってくらす社会をめざして、仕事や社会参加にチャレンジする場です。当番のほかにも、求人広告を自分達でチェックしたり、商店街や工業団地に出かけて行って、職場見学をさせてもらったり、市民まつりなどに店を出したり、時々小さなアルバイトをしたりしています。毎日通う場ではなく、指導員もいません。先輩障害者や家族やその他のメンバーが、一定の応援はしています。利用料は不要。あなたも試しに参加してみませんか。

▷委託事業

職員の数が限られ、職場や関係機関へ訪問することも多いため、予めお電話をいただき、調整させていただければ、十分な時間をかけたお話ができます。特に下記のガイダンス、セミナーは事前に電話等でご連絡をお願いします。

●就労支援センターガイダンスは、8月はお休み、9月10日(火)、10月10日(木)、11月6日(水)(いずれも10:00～12:00)に開かれます。また、セミナーは、やはり8月はお休みで、9月17日(火)、10月16日(水)、11月14日(木)いずれも13:00～16:00)に開かれます。

ガイダンスでは、個別相談だけでは十分にお伝えしきれないセンターのさまざまな活用方法について、わかりやすくご説明します。そのときどきの旬の情報もお知らせします。

疑問・質問にもお答えしますので、何度でもご参加ください。

セミナーは、毎月テーマを決めて、ワークショップ形式で行います。

会場はいずれも原則、産業雇用支援センター4階です。



当会の目的

この法人は、地域の事業所、福祉施設、学校、在宅障害者と家族、市民に対して障害者の職場参加活動を啓蒙、普及、促進する事業を行い、障害者の多様な働きかたの実現をめざし、労働と福祉の障壁の解消を図るとともに、共に育ちあい、働きあい、暮らしあうまちづくりを通して、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。(定款第3条)

当会の事業

- ・特定非営利活動に係る事業
- 職場参加の基盤形成のための支援事業
- ・福祉施設等の職場参加に関する協力関係の促進を図る事業
- ・障害者の就労・生活支援のための資料収集と情報提供に関する事業
- ・啓蒙と地域の輪を広げるための勉強会等を開催する事業
- ・国、自治体に対して施策を提言する事業
- ・協力事業所の開拓に関する事業 (定款第5条)

会員募集

障害者の職場参加をすすめる会では趣旨に御賛同いただける方を常時募集しています。

正会員

年会費 3,000円

賛助会員

個人年会費 3,000円

団体年会費 5,000円